

おしどり伝説と「嵯峨野の釈迦」を追って

—「おしどり寺」縁起の語る時代—

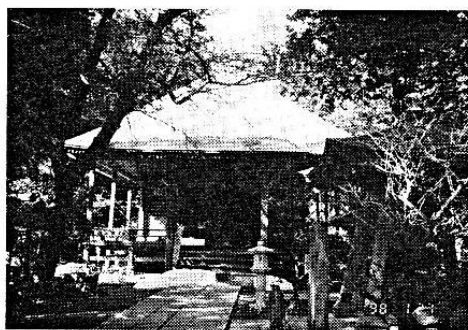
藤 由 美

1 おしどり伝説を探る

おしどりは、昔から夫婦愛のシンボルとされ、それは「鴛鴦の契り」などの言葉で表現されてきました。雌雄のつがい仲良く寄り添う姿は、確かにほほえましく見えます。しかし、この鳥の雄の示す習性は、愛について人々に更に強い情感を呼び起こしてきました。水鳥の中でも際だって美しい雄の姿は、猛禽類や狩人の標的になりやすく、雄は危険を察知すると、あえてめだつ行動をし、己を犠牲にして雌や雛を守るといいます。

この生態に基づくおしどり伝説の民話は、八千代市村上の正覚院の縁起にも見ることができます。縁起によると、昔このあたりに阿蘇沼があったころ、平入道真円という男が、1羽のおしどりを射殺しました。その夜、丹顔美しい女人が現れ、「きょう、あなたは私の夫を殺しました」といいます。男が「心覚えのないこと」と言うと、女は「うそをつかないで」と言い、「日くるれば誘いしものをあそぬまの まこもかくれのひとり寝ぞうき」という歌を詠んで帰りました。葦の葉陰の一人寝のつらさを訴えにきたおしどりの雌と知り、夜が明けてからよく見ると、くちばしを合わせあって雌雄のおしどりが死んでいました。この情愛の姿に心打たれた男は、自ら出家し、池のほとりに草庵を結んで「池証山鴨鴛寺」と号したという物語です。

この話は、先日NHKの「なぞ解き歳時記」で、正覚院のたたずまいとともにおしどりの生態と、この伝説が広く各地に分布する例として愛知県の天桂寺の縁起も紹介されていました。



雪の正覚院釈迦堂

正覚院は、「嵯峨野の釈迦」と呼ぶめずらしい様式の清涼寺式釈迦如来像と、中世武士団の館のたたずまいを今に残し、また、おしどり伝説をはじめ、「智証大師の霊夢」「片葉の弁天」「池に沈んだ釣鐘」など数々の伝説にいろどられた真言宗の古刹です。最近、正覚院の釈迦堂の傍らには、「鴨鴛塚」と刻まれた石碑が建てられ、また、寺

おしどり伝説類話の比較一覧

| | どこにある はなし? | いつ | だれが | どこで | どうしたか | どうなった |
|----|----------------|------------------|-----------------|----------------|-----------------|-------------------|
| 1 | 八千代市 正覚院縁起 | 保元の頃 (12世紀) | 平入道真円 | 阿蘇沼 (千葉県) | 雄を射る | 女が歌Aを詠む |
| 2 | 沙石集 | 13世紀以前 | 鷹使いの俗 | アソ沼 (栃木県) | 雄をとる | 女が歌A又はB を詠む |
| 3 | 古今著聞集 | 13世紀以前 | 鷹使いの馬の 允なにがし | あかぬま (福島県) | 雄を射る | 女が歌Aを詠む |
| 4 | 岩瀬郡長沼 町の伝説 | 文永年間 (13世紀) | 獵師 出家し安 養道心 | 会沼 (福島県) | 雄を射って首 を切る | 炎が燃え、歌E が聞こえる |
| 5 | 相馬郡小高 町の伝説 | 重胤下向前 (13世紀*) | 獵師* | 小高二の池 (福島県) | 鉄砲で番の1 羽を撃つ | |
| 6 | 宇都宮市大 町の伝説 | 12世紀 | 獵師 | あさり沼 (栃木県) | 雄を射る | |
| 7 | 印旛郡富里 の伝説 | 12世紀 | 千葉常胤 | 中沢大谷津 (千葉県) | 雄を射るが隠 れる | |
| 8 | 香取郡塙台 の伝説 | | 獵師 | 山田町塙台 (千葉県) | つがいを射る | |
| 9 | 上伊那富県 村の伝説 | 慶長3年 (16世紀) | 武士 桜井重久 | 貝沼 (長野県) | 雄を射る | 女が歌Cを詠む |
| 10 | 引佐郡三ヶ 日町の伝説 | | 獵師 | 英多神社池 (静岡県) | 矢で射って食 べた | 夜、怪しい鳥の 声が出た |
| 11 | 西春日井郡 の伝説 | | 城主藤堂 | 白木橋 (愛知県) | つがいを射る | 夢に女が現れう らみをいう |
| 12 | 天桂寺の 伝説 | | 侍 | 春日町 (愛知県) | 雄を射殺す | 女がなじり雄の 首を持ち去る |
| 13 | 朝倉郡の 伝説 | 大同4年 (9世紀) | 城主御原時勝 出家し無方 | 香山の淵 (福岡県) | 雄を射る | |
| 14 | 八代郡麦島 の伝説 | | | 植柳村麦島 (熊本県) | 石を投げて 雄を殺す | 女が歌Dを詠む |
| 15 | 奄美大島の 伝説 | | 獵師 | 奄美大島 (鹿児島県) | 鉄砲で雄を 次に雌を撃つ | |

女の歌

- A 「日くるれば 誘いしものを あそぬまの まこもかくれの ひとり寝ぞうき」
 B 「日暮ば いざやとといし アソ沼の 真薦のうえに 独りかもねん」
 C 「日暮れなば いざと誘いし 貝沼の 真菰が池に 鶯鶯(おし)のひとり寝」
 D 「明けぬれば 暮るるぞ惜しき 古池の 真菰かくれの 独りねぞ憂き」
 E 「暮れぬれば 恋しきものを 会沼の まこもかくれの 独寝の声」

| | そしてどうした | おしどりは | 某はどうしたか | 何のはなし |
|----|--------------------|-------------------|-----------------|----------------|
| 1 | 翌朝みると | 雌雄くちばしを合せ死んでいた | 出家し、寺をたてた | 池証山鴨鴛寺の縁起 |
| 2 | 翌朝みると | 雌雄くちばしを合せ死んでいた | 出家した | 出家の因縁説話 |
| 3 | 翌朝みると | 雌雄くちばしを合せ死んでいた | 出家した | 出家の因縁説話 |
| 4 | 翌朝みると | 雌が雄の首を羽に挟み射られていた | 出家し、法燈国師となる | 安養寺の由来 |
| 5 | 次にもう1羽を撃つ | もう1羽の首を羽に抱いていた | 鳥を葬り、庵を作った | 円応寺(以前は鴛鴦寺)の由来 |
| 6 | 翌日雌も射る | 雌が雄の首を羽に抱いていた | 日光本宮寺の僧になる | 石塚(おしどり塚)の由来 |
| 7 | 翌日探しに行く | 雌が雄の首を羽に抱いて死んでいた | 鴛鴦寺を建てた | 鴛鴦寺(麁寺)の伝説 |
| 8 | | | 供養塚を築き出家、阿闍梨となる | おしどり塚の由来 |
| 9 | 1年後雌を射る | 雌が雄の首を羽に挟んでいた | 出家し、寺をたてた | 鴛鴦山東光寺の縁起 |
| 10 | 翌日雌を射止める | 雄の首が羽の下から出る | 雌鳥と雄の首を葬り百姓となった | おしどり池の由来 |
| 11 | 翌年また射る | 昨年射たおしどりの頭が出る | 鴛鴦寺を建てた | 白弓山鴛鴦寺の縁起 |
| 12 | 翌日放った矢に雌が飛んできて射られる | 雌の羽の中から、雄の首が転がり出る | 出家し、塚を作った | 住職出家とおしどり塚の由来 |
| 13 | 翌年雌を射る | 雌が雄の首を羽に抱いていた | 出家した | |
| 14 | | | | |
| 15 | | | つがいを埋め墓石を建てる | 墓石の始まり |

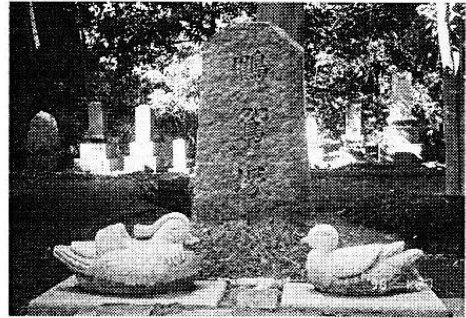
*1 「享保年間(18世紀)、相馬の殿様が家来に鉄砲で撃たせた」との説もある(『相馬伝説集』)

☆このほかに、おしどり以外の鳥の類話が6話ある

1. 福島県相馬郡鹿島町の双鳥伝説
2. 同県安達郡岳下の鴨石のいわれ
3. 大阪府四条畷市の雁卒塔婆の口碑
4. 大阪市東成区深江の雁塚
5. 愛知県東加茂郡足助町の雁塚
6. 福岡県旧企救郡の鶴を撃つ話

の縁起を美しい絵本にした「おしどり寺ものがたり」という本も刊行されて、正覚院は全国的にも「おしどり寺」として、すっかり有名になったようです。

今回あらためておしどり伝説の由来と分布を調べるために、早速あちこちの図書館で各県別の児童向け民話集や中世の説話集をひもといてみると、正覚院の縁起に類似した話を21話も見つけることができました。これらの物語を一覧にしたのが、別表です。また、末尾に今回集めた伝説の出典を載せましたが、皆様の故郷や訪れた地におしどり伝説がありましたならば、ぜひお知らせください。



鴨鴛塚

2 伝承の生態と類似の定理

21話のおしどり伝説の話の内容は、微妙に異なりますが、時代は中世以降、主人公は獵師又は武士で、殺生を悔いて出家し、多くはその地の寺の由来か僧の伝記又は塚のいわれとして伝わっています。また、半数近くにひとり寝を愁うる歌が挿入されているのが特徴です。

一般に、伝承は「昔々あるところに」で始まり、「……だったとき」などと一定の形式で語られる「昔話」と、固有名詞で時・所・人を特定した「伝説」に分けられますが、これらおしどりの伝承は、No.10の三ヶ日町とNo.15の奄美大島の伝承以外ほとんどが「伝説」の形態を有し、そこには柳田国男のいう「偶然とは見られない大規模な一致」があります。

分布の北辺は福島県、南は奄美大島に及びますが、京に近い西日本に少なく、周辺に厚く分布しています。このことは、柳田の「伝説半径」すなわち「ある伝説発祥地を中心に文化地におけるその半径は長く、田舎に行くほど短い」という説のごとく、ドーナツ状を呈します。

事実の信憑性を重んじる「伝説」において事実が二つあるはずがないという思いから、多くは情報により淘汰され、それ故に類話は情報の量・速さ・密度に反比例して僻地に多く残存してきたのでしょう。

柳田によれば「伝説の異常なる統一」は、「人を信ぜしめる力のあった者により運ばれた」からであり、その者とは「修練した女の宗教家」、たとえば「歌比丘尼」などであろうと推論しています。そして、「日暮るれば」の歌を伴うこのおしどり伝説につい

て「ただの話としても相応に美しく、妹背の恋の悲しみは何人にも理解せられるものであった故に、如何なる山里へ持って来てても所謂受け」、「是をただ仮設の物語とはせず、此沼此御堂の昔にかつて有ったことと信じ、伝えさせたのは語り方の技術であった」と述べています。

たしかに正覚院の縁起も全国に数ある類話の一つでしょうが、他の類話との比較しながらこの説話の広められた時代の宗教的背景を探ってみると、この説話の意図したメッセージが今の私たちに伝わってくるように思えてきました。

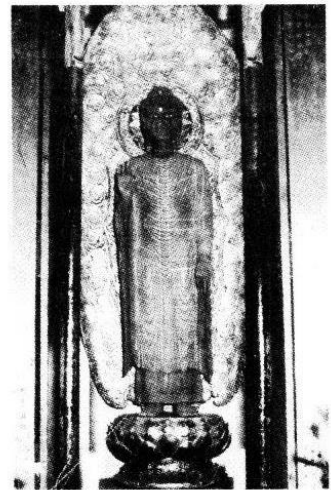
3 清涼寺式釈迦如来像と叡尊の足跡

正覚院には釈迦堂に鎌倉時代の清涼寺式釈迦如来像が安置され、墓地には応永18年(1411) 銘の宝篋印塔が残っています。川嶋家に伝わる「村上正覚院釈迦如来縁起」は、江戸時代の延宝2年(1674) 釈迦像修理の際に記された縁起で、前半は、智証大師が霊夢により印旛の浦にくだった「嵯峨野の釈迦」の御首をたずねあて、童子(毘首羯磨天)の助けを得て釈迦像を完成させる説話、後半は、保元のころ保品から本尊を移した平真円とおしどりの伝説からなっています。

「伝説は信仰を伝えるもの」といいます。このおしどり伝説の伝えようとした信仰とはなんであったのでしょうか。そのヒントは、この御堂におわします「嵯峨野の釈迦」すなわち清涼寺式釈迦如来像の歴史的背景にあるように思われます。珍しい作風のこの尊像の様式は、10世紀東大寺の僧裔然が宋より招来した嵯峨清涼寺の釈迦像を模した様式で、鎌倉時代に流行したといわれますが、今はその変形像を含め百体くらいしか残っていません。

一昨年宇治放生院橋寺から奈良西大寺へ僧叡尊の事蹟をたどった旅は、清涼寺式如来像との出会いでもありました。また、鎌倉極楽寺など清涼寺式如来像を訪ねていく寺には、叡尊とその弟子たちの足跡が刻まれていました。

鎌倉時代は仏教改革の時代であり、法然・親鸞・日蓮・栄西など新仏教の祖師たちがそれまでの鎮護国家の仏教から、民衆の中で個人の救済と現世での実践を最もラディカルに展開していった時代であったといわれています。

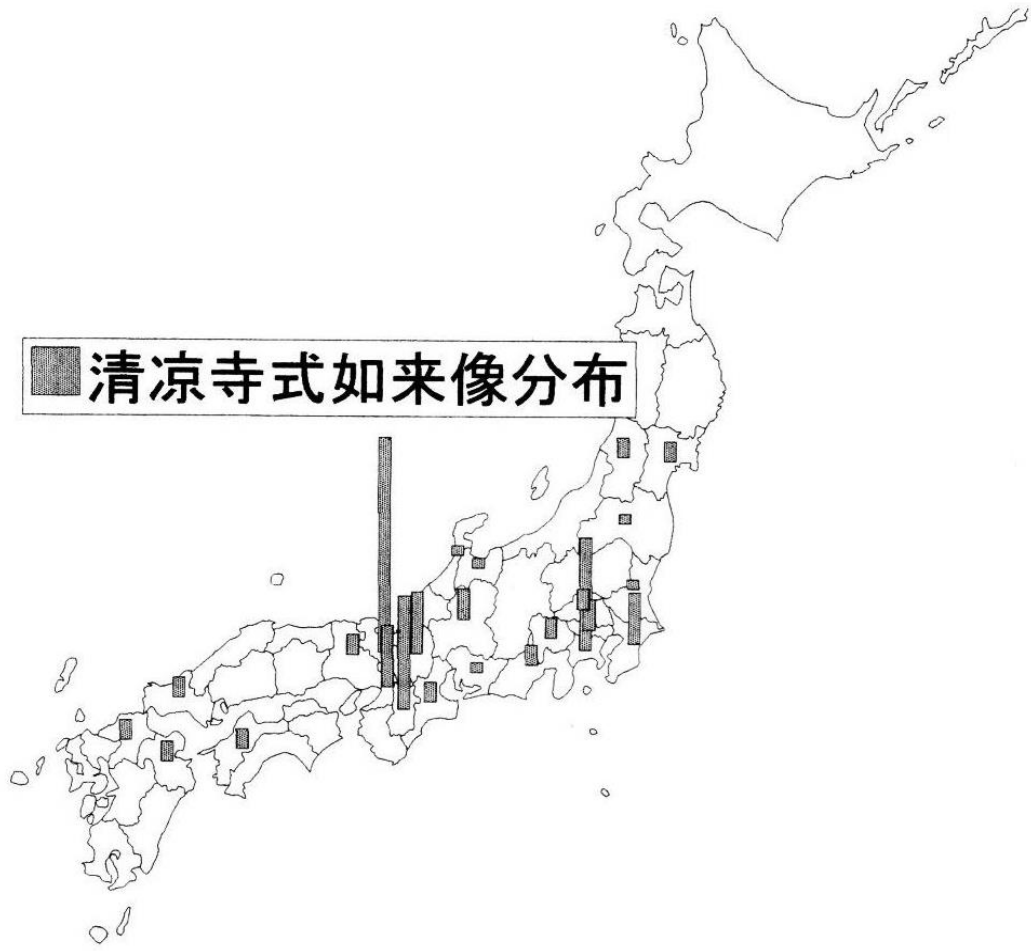


正覚院の木造釈迦如来像



| | 鴛鴦伝説 | 他の鳥類話 | 類話合計 |
|------|------|-------|------|
| 福島県 | 3 | 2 | 5 |
| 栃木県 | 2 | | 2 |
| 千葉県 | 3 | | 3 |
| 静岡県 | 1 | | 1 |
| 長野県 | 1 | | 1 |
| 愛知県 | 2 | 1 | 3 |
| 大阪府 | | 2 | 2 |
| 福岡県 | 1 | 1 | 2 |
| 熊本県 | 1 | | 1 |
| 鹿児島県 | 1 | | 1 |

清凉寺式如来像分布



| 県名 | 釈迦像 | 変形像 | 清凉寺式計 | 県名 | 釈迦像 | 変形像 | 清凉寺式計 |
|------|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-------|
| 宮城県 | 1 | 1 | 2 | 石川県 | | 1 | 1 |
| 山形県 | 1 | 1 | 2 | 富山県 | 1 | | 1 |
| 福島県 | 1 | | 1 | 三重県 | 2 | | 2 |
| 茨城県 | 1 | | 1 | 滋賀県 | 5 | 1 | 6 |
| 千葉県 | 3 | 2 | 5 | 京都府 | 18 | 3 | 21 |
| 埼玉県 | 2 | | 2 | 大阪府 | 5 | 1 | 6 |
| 東京都 | 1 | 2 | 3 | 兵庫県 | 1 | 1 | 2 |
| 神奈川県 | 5 | 6 | 11 | 奈良県 | 10 | 1 | 11 |
| 山梨県 | 2 | | 2 | 山口県 | 2 | | 2 |
| 静岡県 | 1 | 1 | 2 | 愛媛県 | 1 | 1 | 2 |
| 岐阜県 | 1 | 2 | 3 | 福岡県 | 2 | | 2 |
| 愛知県 | 1 | | 1 | 大分県 | 2 | | 2 |

そして、南都の旧仏教の中からも、叡尊とその弟子忍性らが非人救済などの慈善活動や架橋などの公共事業、死者の弔いなどにめざましい活動を展開していました。鎌倉の極楽寺には、忍性が現代のマザー・テレサさながらに非人（その多くはハンセン氏病とみなされていた人々）の治療を行った療養施設が立ち並んでいたといわれ、今も薬の製造に使われた大きな石鉢と石臼が境内に残されていました。

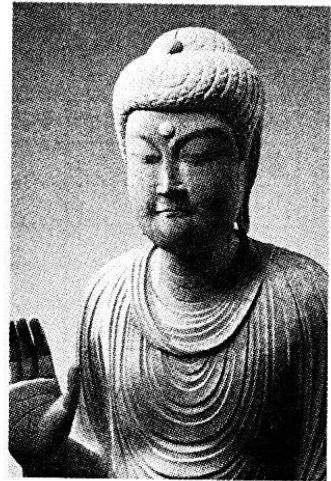
それまで穢れへのおそれから非人救済や弔いをタブー視してきた官僧たちとは一線を画して、これらの活動に邁進し得た叡尊の思想の原点は、釈迦が生涯をかけて説いた慈悲の精神と戒律の厳守に立ち帰ることでした。そして、その心の支えとして、生前の釈迦生き写しの像として中国から伝来した清涼寺の釈迦如来像を特に崇拝したといえます。

こうして、三国伝来の清涼寺式釈迦如来像は、叡尊とその弟子によりたくさんの模刻が造られ、叡尊の教団の活動した寺々にその教えとともにもたらされたのでした。そして、その分布を地図上にプロットすると図のように、叡尊の活動した奈良・京都と忍性が拠点とした鎌倉の二つの核を持つ星雲状の楕円を描きました。

4 金沢文庫が語る千葉氏と「嵯峨野の釈迦」

この冬、東国特に房総の「嵯峨野の釈迦」の分布を調べるため、六浦の金沢文庫を訪ねました。たくさんの中世文書を保存研究する金沢文庫には、図書室が完備し、その研究成果が自由に閲覧できます。金沢称名寺の本尊も「嵯峨野の釈迦」であり、また、35年前この館の館長により古文書を手がかりに、上総三ヶ谷永興寺の清涼寺式釈迦如来像が発見されたことなど、清涼寺式釈迦如来像の資料を探すのに適した施設です。そしてそこで把握できたことは、永興寺の釈迦像が西大寺の釈迦像と同派の仏師によって造られ、また、村上の正覚院の像と忍性が住した茨城県福泉寺もまた同系であることでした。

さらに、香取郡吉岡の大慈恩寺の本尊も後に上半身補修のため姿を変えているものの、かつては清涼寺式の像であったといえます。この寺は、2年前の冬、大雪の中を本会の見学会で訪ねた印象深い古刹で、近年の解体修理の際、胎内の五輪塔に明応4年（1495）の銘が見つかりその前年の1995年に五百年の法要を営んだことを御住職からお聞きした思い出があります。



金沢称名寺の釈迦如来像

金沢文庫の中世文書は、鎌倉の外港・六浦を拠点に東京湾を航路として、北条金沢氏と千葉一族が婚姻や領地支配をもとにした強い関係や、称名寺の僧による教線の伸展を物語っていました。村上の正覚院の住職名や領主名をその中に探すことはできませんでしたが、鎌倉・六浦・下総・常陸を結ぶ叡尊教団の教線と千葉一族の領地支配の線上に草深い村上の地があったことを確認することができました。

そして、村上のおしどり伝説の架空の主人公「平真円」の名のおもかげに、千葉＝平姓の誇りと、大慈恩寺を開山した称名寺第四世実真の師「円定房真源」の記憶が眠っているように思えるのでした。

5 おしどり伝説と「嗟峨野の釈迦」が伝える心

各地のおしどり伝説は、微妙に違いがあるものの、そのメッセージは慈悲と殺生禁断の教えであり、この教えこそ叡尊が最も強く訴え、実践した教えでした。叡尊は宇治川の、忍性は鎌倉の前浜の漁師に対し、その生業を他の仕事に変えて生活できるよう奔走したほど、殺生への戒めを徹底し、まして人が人を殺すことなど絶対あってはならないと、人殺しを業とする武士に説き、多くの武士層を感化しました。

おしどり伝説は、獵師又は狩を好む武士の回心がテーマです。血生臭い中世に不殺生戒と慈悲の教えを説く叡尊教団の宣教の有力な武器として、この説話がフルに語られたに相違ありません。

このおしどり伝説と清涼寺式釈迦如来像の分布を追っている過程で、正覚院のほかにこれらが一對で残る寺院はないかと思いましたが、そのような偶然に巡り会うことは残念ながらありませんでした。しかし、一方は奈良・京都の特定の仏師により造られた仏像、他方は漠とした民間伝承という形態の違いにより、前者は核を持つ星雲状、後者はドーナツ状と分布の形は異なっていますが、叡尊の信仰を伝える釈迦像とおしどり伝説の分布範囲は、不思議と重なっています。

五百年以上の時間が過ぎ行く中で、全国各地のおしどり伝説は、数々のヴァリエーションを生み、清涼寺式釈迦如来像もまた風雪に耐えられず、後の補修によりその姿を一見して同型と思えないほど変えてしまっているものもあり、また、それ以上に失われたものも数多くあります。

正覚院では、近世初頭、容貌と衣の模様が変わったものの、釈迦像に丁寧な修理が施され、また、「おしどり伝説」も同時期に寺の縁起に記されて、13世紀の説話集「沙石

集」の話と比べてみても、あまり時代の変化を受けない形で残されました。

八千代市の私たちにとって、村上的おしどり伝説と「嵯峨野の釈迦」は、共に中世の地方武士が現世社会の自己矛盾の中で、後生の救いを真剣に求めたひとつの信仰のあり方を今に伝える貴重な文化遺産であると思います。

参考文献

- 『傳説』 柳田國男 定本柳田國男集第5巻 筑摩書房
『清涼寺式釈迦如来像現存表』 前田元重 金沢文庫研究紀要第11号
『東国の清涼寺式釈迦如来像』 猪川和子 三浦古文化第14号
『上総三ヶ谷永興寺』 熊原政男 金沢文庫研究第9巻第8号
『鎌倉新仏教の誕生』 松尾剛次 講談社現代新書
『叡尊』 日本名僧論集第5巻 吉川弘文館
『鎌倉の仏教』 貫達人・石井進 有隣新書

各地の主なおしどり伝説の出典（番号は、表のNo.）

- 1 「村上正覚院釈迦如来像縁起」（『八千代市の歴史』資料編）
- 2・3 『日本古典文学大系』 岩波書店
- 3の類話・4・5・6・7・8 『日本伝説体系』 みずうみ書房
- 6 『ふるさとの民話 栃木県の民話』 偕成社
- 8 『千葉県の不思議事典』 人物往来社
- 9 『日本の伝説・日本編』 偕成社文庫
- 9・11・13・15 『日本昔話大成』 角川書店
- 10 『ふるさと再発見 遠州の民話』 静岡新聞社
- 12 NHK TV 1997. 12. 20放映「なぞ解き歳時記」
- 14 『日本昔話事典』 弘文社
- 15 『全国昔話資料集成15』 岩崎美術社

その他の鳥の類話6話の出典

- 1・2・3・4 『日本伝説体系』
- 5 『日本神話・伝説総覧』 新人物往来社
- 6 『日本昔話大成』 角川書店

史談八千代 第23号

発行日 平成10年10月18日

発行者 八千代市郷土歴史研究会

会長 村 田 一 男

事務局 牧 野 光 男

〒276-0023 千葉県八千代市勝田台 3-24-10

TEL 0474 (83) 6278 (牧野方)

取扱店 大杉書店 (勝田台 1-30)

青嵐書房 (八千代台東 1-2)

藤春書房 (八千代台西 1-4)

多田屋勝田台店 (リブレ京成勝田台店 3F)

印刷所 〒130-0014 東京都墨田区亀沢 3-20-14

ヨシダ印刷 両国工場

TEL (03) 3626-1301

著：[蕨 由美](#) [HP「さわらび通信」](#)